

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20407	
事業名	おとしより憩の家運営補助金						
評価担当課	所属名	保)高齢保健福 高齢福祉課					
	課長名	石崎 憲史	担当者名	内湯 慎平	電話番号	011-211-2976	
施策名	主	地域で共生する環境づくり					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	地域の高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等のための場を提供することで、心身の健康増進と交流機会の創出を図る。(AP2019数値目標:年間利用者数2022年度 105,000人)				
		長期	地域の高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等のための場を提供することで、心身の健康増進と交流機会の創出を図る。				
	取組内容	地域の高齢者が無料で利用できる「おとしより憩の家」を運営基準に基づき、自主的に運営している団体に対し、その経費の一部を補助している。					
	実施結果	59か所設置・運営、年間利用者数47,754人					
事業実施における工夫点	ホームページ等に事業内容を掲載することにより、市民への適切な情報提供に努めている。						
対象者	おとしより憩の家運営者			開始	昭和54年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市おとしより憩の家運営費補助要綱						
他都市の状況	各政令市で類似の事業が行われている。						

◎事業費

(単位:千円)

		令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費		20,185	22,000	20,250	21,000
うち特定財源		0	0	0	0
人工		0.1	0.1	0.1	0.1
人件費		720	720	720	720
計(事業費+人件費)		20,905	22,720	20,970	21,720
事業費の内訳	令和3年度決算	おとしより憩の家運営費補助金 20,250千円			
	令和4年度予算	おとしより憩の家運営費補助金 21,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	年間利用者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	50,726人	105,000人	47,754人	105,000人	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	憩の家は、各区に1か所ずつ整備されている老人福祉センターの補完的役割を果たしており、コロナ前には、年間延べ10万人以上の利用があったことから、高齢者の生きがいづくりや介護予防に寄与しているといえる。一方、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者は減少傾向にあることから、利用者増に向けた取組が必要となる(2021年度利用者数:47,754人)。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	高齢者に限定しながらも、できるだけ多くの市民に利用してもらうためには、対象年齢は60歳以上で、補助額も現行水準で維持する必要がある。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	憩の家に対する補助が一律(定額)という状況にあるため、補助の組立てについては、変更を検討する余地がある。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	現利用者にとっては、高齢者同士のつながりを生み出し、それを維持する重要な居場所の一つとして機能しているといえる。ただし、利用者について減少や固定化の傾向にあることから、新規利用者獲得に向け、多くの高齢者が利用したいと思えるような取組を検討する必要がある。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	憩の家の運営補助を継続することにより、一定数の高齢者の生きがいづくりに寄与しているといえるが、利用者について減少や固定化の傾向にあることを踏まえ、利用者増に向けた取組を検討していく必要がある。				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	憩の家の運営補助を継続することにより、一定数の高齢者の生きがいづくりに寄与しているといえるが、利用者について減少や固定化の傾向にあることを踏まえ、利用者増に向けた取組を検討していく必要があるなどの改善点があるため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 補助を継続するとともに、より有効的な事業となるよう、引き続き補助の実施手法の検討を進めていく。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他		同程度の予算を確保	見直し効果額